

番組審議会資料（第 21 回、令和 5 年 9 月 6 日開催）

1 開催年月日：令和 5 年 9 月 6 日（水）

2 開催場所：私学会館 アルカディア市ヶ谷（7 階 白根）

3 委員

委員総数 8 名

出席委員数 7 名

出席委員の氏名：朝比奈豊（株式会社毎日新聞社 名誉顧問）、
足立盛二郎（元公益財団法人 日本棋院理事、元ゆうちょ銀行取締役
兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、
兵頭俊夫（東京大学 名誉教授）、
音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、
中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、
元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、
清水市代（将棋女流棋士／公益社団法人日本将棋連盟 常務理事）
吉原由香里（囲碁棋士）

欠席委員の氏名：野田慶人（元日本大学芸術学部 学部長）

放送事業者側出席者名：今井 環取締役会長、倉元健児代表取締役社長、
驛田雅文業務部部长、業務部コンテンツ編成より遠藤 健、高田智子、
渉外部セールスプロモーションより望月 陵

4 議題

- ・生放送に関して
- ・特別番組に関して
- ・編成に関して
- ・その他・今後の放送予定に関して

5 議事の概要

(1) 生放送に関して

- ・2023 年の生放送を紹介。
「第 2 回テイケイ杯（4～5 月）」
「ALSOK 杯王将戦（通年）」「第 71 期王座戦（6 月～）」
- ・2023 年は年間生放送本数が過去最高となる見込み。

(2) 特別番組に関して

【囲碁】仲邑 董 13 歳の軌跡 ～夢への第一歩～（2023 年 3 月 26 日）

- 【将棋】第44期女流王将 西山朋佳の素顔（2023年6月3日）
- (3) 編成に関して
- 【将棋】毎日藤井聡太特集（2023年4月1日～30日）
- 【将棋】藤井聡太 Week（2023年7月17日～23日）
- (4) その他・今後の放送予定に関して
- 【囲碁】第2期 新竜星戦（2023年1月4日～9月20日）
- 【囲碁将棋以外】第4回 囲碁・将棋チャンネル杯 麻雀王決定戦
(2023年4月29日～8月12日)

6 審議内容

- (1) 生放送に関して
- （放送事業者）画面上に、AI候補手を5通りほど表示するようにした。
また最有力手については、そこから7～8手先までAIの読み筋を表示。
リモートカメラで対局者のワンショットを移すなど、試行錯誤を繰り返している。
- （朝比奈委員）リモートカメラはよく主催のOKが出たと思う。生放送はどんどん増やしてほしい。チャンネルの評価も上がって来るはず。
- （足立委員）生放送が増えているのは良いこと。ゆったりとした時間で囲碁を楽しむことができる。
- （兵頭委員）生放送のPRはどのようにしているのか？
- （放送事業者）「まるナビ（情報番組）」での告知や広告出稿など。対局直前に放送が決まるケースもあり、そのような場合のPRが課題。
- （兵頭委員）見逃した方へ向けたケアは？
- （放送事業者）1時間強のダイジェスト版を製作し、後日放送している。
- （中村委員）以前は生放送に関して「尺が長すぎる」などの意見もあったと思うが、現在は人気が出ている。長考で局面が動かなくても、ながら見で良いということかもしれない。
- （音委員、兵頭委員）視聴率の傾向は？
- （放送事業者）将棋の方が高い傾向。また、終局に向けて徐々に上がっていき、終局すると急降下するのはどの対局も変わらない。
- (2) 特別番組に関して
- （放送事業者）竜星戦、銀河戦、女流王将戦の優勝者に迫る「素顔シリーズ」を制作しているが、今後はこの優勝者に限らず、もっと若手棋士の素顔に迫る番組も制作したいと考えている。そして、時流に沿った特番も常に制作して行きたいと考えている。
- （兵頭委員）「素顔シリーズ」は良い。テーマ（内容）はどのように決めているのか？

(放送事業者) 撮影上の危険がないものの中から、出演者と協議の上、決めている。

(足立委員) 「素顔シリーズ」はとても良い。トップ棋士でも普通の人間であることを見せる、というのは囲碁・将棋に一般人がなじむきっかけになる。

(吉原委員) 「第31期竜星 井山裕太の素顔」はとても楽しみにしている。出演者がSNSで積極的に発信してくれているので、若い人にも届くだろう。

(3) 編成に関して

(放送事業者) 当社の約30年分のアーカイブを生かして、「毎日藤井聡太」「毎日井山裕太」などの特集を組んでいる。

(朝比奈委員) 藤井聡太竜王・名人は別格とを感じる。藤井ファンの属性は多岐にわたるが、これは藤井竜王・名人が大きく普及に貢献していることの表れと言える。

(4) その他・今後の放送予定に関して

(足立委員) 生放送や「竜星戦」はゆったりとした時間が流れている。囲碁文化、囲碁の楽しみ方にあっているのではないかと感じる。しかし、「新竜星戦」はそこから外れているように思う。1手5秒は忙しい。好評とのことなので、私が少数派なのかもしれないが。

(兵頭委員) 私は「新竜星戦」のような手軽にみられる番組の方がありがたい。自宅で見るとちょうど良い。

(放送事業者) 近年はタイムパフォーマンス重視の層も増えており、ゆったりと楽しみたい方、短い時間でご覧になりたい方など様々な層に向けて、バラエティに富んだ番組を意識している。

(吉原委員) 「新竜星戦」「中国竜星戦」「韓国竜星戦」を楽しく見ている。中韓の解説を聞いていると、文化の違いや解説テンポの違いが良く分かる。

(清水委員) 「韓国竜星戦」の通訳は1人2役(解説&聞き手)と聞いているが、視聴者が戸惑ってしまうことはないのか。

(吉原委員) 何となく声のトーンで判別できる。

(兵頭委員) もっと声のトーンを変えると良いかもしれない。

(放送事業者) 囲碁が分かるプロ通訳者はなかなかいない。「韓国竜星戦」はプロ通訳を使っていないためトーンの使い分けにも限界はあるが、今後工夫したい。

(朝比奈委員) アジアの文化の違いは興味深い。まもなく杭州アジア大会が開幕し、日本からは一力遼棋聖らが出場する。2010年の広州アジア大会を訪れたことがあるが、ドーピング検査もあり、まさに「スポーツ」という扱いだ。

(兵頭委員) 「囲碁界から見たアジア大会」という観点も意義深いのでは。

(朝比奈委員) スポーツでは日本が勝つと大きく話題になる。囲碁でもメダルを獲ってきて欲しい。

(中村委員) 日本のレベルが上がれば普及にも好影響のはず。

(吉原委員) 実は日中韓の棋士同士は仲が良い。仲邑菫女流棋聖も中国国内の団体戦の助っ人として呼ばれている。驚くような情報がたくさんある。例えば中国の囲碁大会は参加応募争いが激しく、日本と全く様子が異なる。そういった情報は個人で集めるのは難しいため、専門チャンネルでも扱ってほしい。

(足立委員) 日本の囲碁は文化庁に属する。一方中国は国家体育総局に属しており、スポーツという意識がある。日本の文化振興基本法上、囲碁は「国民娯楽」に分類されている。

(兵頭委員) 長い時間をかけて、分類を変える必要がある。

(放送事業者) 角界に目を向けると、親方達は「伝統文化」という意識を持ち、さらに場所前には神事を行う等の文化的な側面も色濃い。しかし管轄はスポーツ庁である。囲碁と相撲は共通する部分があるように思うので、分類という観点からも囲碁を考えていきたい。

以上